

BASE Vol.109

実践的基礎知識 ポートフォリオ特性の確認編(10)
 <どのようにポートフォリオ構築を行うか>

2020/01/30

どのようにポートフォリオ構築を行うか

債券利回りの大幅な低下に伴い、「株式に債券を組み合わせることでリスクを抑える」というこれまでのバランス運用の基本形が大きく崩れてしまった可能性があります。

今後ポートフォリオの構築を考える場合には、組み合わせる資産の配分を工夫したり、伝統的資産に対し相関の低いオルタナティブ投資を活用するなど、従来とは異なるアプローチが必要になってくると考えられます。

インフレからお金の価値を守るには

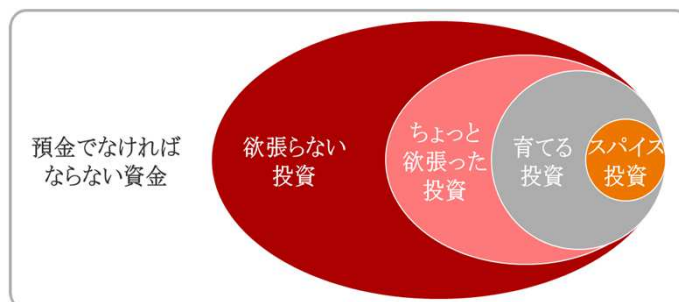
日本銀行は年率2%の「物価安定の目標」を早期に実現するため金融緩和を行っており、将来的なインフレが懸念されます。インフレによりものの値段が上がれば、お金の実質的な価値は減ってしまいます。実質的な価値を減らさないようにするためには、ものの値段が上がる以上にお金を増やす必要があります。

インフレからお金の実質的な価値を守るためには、金融資産全体で考えることが重要となってきます。投資している部分だけがインフレに勝てばいいというのではなく、金融資産全体の価値がインフレで目減りしないような全体設計が必要です。お金の価値を守るための投資には過度なリスクは必要なく、むしろ大きな金額の投資に耐えられるようなポートフォリオにする必要があります。

図表1は預金を含めた資産の全体設計の考え方のイメージを「お金のタマゴ」の形で表したものです。

運用の目的や資金の性格、投資できる期間などを踏まえた上で、どの投資対象が自分に合っているかどうかを預金を含めた金融資産全体から考えることが大切です。

図表1: 預金を含めた資産の全体設計



欲張らない投資

インフレ率程度のリターンで十分

- 目標リターンは物価上昇率を上回ること
- 2年以上5年以内で投資できる資金

ちょっと欲張った投資

ほどよいリスクでほどよいリターン

- 「守りながらちょっと増やしたい」という性格の資金
- 5年以上10年以内で投資できる資金

育てる投資

じっくりと資産を育てる

- 「じっくり資産を増やしたい」という性格の資金
- 10年以上投資ができる資金

スパイス投資

リスクをとって大きく資産を増やす

- 売買タイミングが重要
- 15年以上投資ができる資金

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

実践的基礎知識 ポートフォリオ特性の確認編(10)
 <どのようにポートフォリオ構築を行うか>

これからのポートフォリオ構築のポイント

債券利回りが極端な低水準に低下している現在、「株式に債券を組み合わせることでリスクを抑える」というこれまでのバランス運用の基本形が、大きく崩れてしまった可能性があります。

従って、これからポートフォリオ構築を考える場合には、株式とキャッシュの配分変更や低相関資産の組み合わせ、オルタナティブ投資の活用など、債券の組入比率を高める以外の手法でリスクを抑えるアプローチが必要になってくると考えられます。こうした対応をファンド内で行う「バランスファンド」の活用も検討してみるのも良いでしょう。

また実際のポートフォリオを考える場合には、過去と現在の違いを考慮したり、為替ヘッジを利用したりするなど、現実に即した工夫も必要です。

図表2:ポートフォリオ構築を行う上で考慮すべきポイント

パーツとツールの理解	環境	期待と許容	決定・実行 モニタリング
資産特性の正しい理解と認識	投資環境の認識と見通し	期待するリターン	為替・金利・株式 リスクヘッジ 使用の有無
リスク・リターン特性／流動性の確認	変化する資産間の相関と各資産のリスク値	許容するリスクの種類と大きさ	パーツ選びと組み合わせ 比率の決定
ヘッジやオルタナティブ投資などのツールの理解	バリュエーションの確認	投資理論と投資哲学	執行とモニタリング